

伸ばして、縮めて、曲げて……。バネ製造の五光発條(横浜市)が開発した金属製のバネをつなげて遊ぶブロック「Sprink(スプリंक)」が話題になっている。従来のブロックでは難しかった曲線や細かい動きを表現できるバネの特性にはまる大人も多い。100を超えるパーツをつなぐ作業に没頭すれば、ストレス解消にもなりそうだ。

「テレビを見ながらバネの6種類のバネと、それを曲げたり、伸ばしたりをつなぐT字やL字になっている作品のアイディアが出るんです」。会社員の高岡恒平さん(42)は昨年12月にカエルを作った。曲線を生かした作品を10個購入。カエルを製作できる。

社長の村井秀敏氏は「バネのバネを使った『昇り龍』や、『ぼろ』、伸びをする『猫』などの作品がずらりと並ぶ。自称『レゴマニア』という村井秀敏社長は「バネを使うことで動物などの動きが表現できる」と従

五光発條は世界でも珍しいバネ製ブロックを商品化した。全長8〜32ミリ

建築模型用ミニ風景



来品との違いを強調する。昨年12月に第1弾の「ネコキット」(840円)、「カエルキット」(1680円)、「ペン立てキット」(1890円)の3商品を自社サイト限定で発売。今後はオリジナル作品を作る100個のパーツを入れた

大人没頭、ストレス発散

セット品を追加する。五光発條は高い技術力を持ち、カメラ向けバネでシニア6割を握るものの、生産コストの安い海外の工場との価格競争に陥っている。「企業の認知度や製品の付加価値を高めたい」と村井社長は言う。

「バネ製ブロックを開発の動機だ。2013年2月に試作品の開発に着手。クラウドファンディングを使い資金55万5000円を調達した。出資者から試作品のバネの固さや難易度などの評価や、パッケージのデザインなど様々な支援を受けて商品化にこぎ着けた。まだ自社サイト限定の販売のため販売数は少ないものの、こうした一般消費者になじみの薄い素材やテーマの玩具は物珍

1枚の紙を切り抜いて作るテラダモケイの「1/100建築模型用添景セット」(東京都渋谷区の東急ハンズ新宿店)

しきもあって、大人を引き付ける。すでに大人の間でヒットしている商品が福永紙工(東京都立川市)が販売する「テラダモケイ」だ。建築模型に添える人や樹木を紙のシートにしたもので、クリスマスや結婚式など様々なシチュエーションを100分の1スケールで表現する。会社員の阿部碧さん(26)は休日、カッターとポンドを片手に自宅やカフェで製作に没頭。「実際の風景を想像して作るのが楽しい」と話す。テラダモケイは08年に建築家の寺田尚樹氏と組み、建築関係の学生向けに発売し、卓上で自分好みの世界を表現できる玩具として広く20〜30代の男女の心をつかんだ。近年は外国人観光客の日本土産としても人気があり、13年は前年比2割増の売上高となった。

工業系キットで精密世界

バネ工場のブロック



バネのブロック「スプリंक」で作られたカエルやネコやペン立て(写真上)。バネとバネをつなぐジョイント部分を作る五光発條のスタッフ(同下、横浜市瀬谷区)



実際に遊んでみると、バネを組み合わせて立体を表現するのは難しく、作り手のセンスが求められる。ただ、押すと柔らかく曲がるバネの手さわりは良さは新たな発見。工業部品に宿る、精密かつ繊細な感触が伝わってきた。

(阿曾村雄太)